日本におけるAED一般解禁20周年を迎えて

日本で一般市民によるAED（自動体外式除細動器）の使用が認められてから20周年を迎えました。2004年7月1日、医療従事者に加え一般市民にもAEDの使用が認められました。それが、日本全国へのAED普及の第一歩となりました。
日本光電は、AED一般解禁に先駆けて2002年にAED事業を開始、2009年には日本初の国産AEDの販売を開始しました。そして、医療機器を扱ったことのない人でもいざという時にためらわずに使えるよう、AEDの機能の開発だけでなく、AED普及のために様々な取り組みを続けています。

■ へき地医療支援を目的としたAEDドローンの実証実験に協力

2025年3月に、山梨県北杜市、TOPPAN（株）、TOPPANデジタル（株）、エアロダインジャパン（株）による、山梨県北杜市のへき地医療における救命救急支援を目的とした、AEDドローンの飛行実証に協力しました。日本光電は、国内唯一のAEDメーカとして、今後もAEDの普及、心肺蘇生の啓発活動を推進するとともに、1分1秒でも早くAEDを使用できるよう、日本を救命先進国にしたいと願っています。





実証実験の様子（提供：TOPPAN株式会社）

■ 小学館『幼稚園』の「おやこで! AEDたいけんセット」に全面協力

（株）小学館の幼児誌『幼稚園』の付録「おやこで！ AEDたいけんセット」に全面協力しました。日本光電のAEDとほぼ同じサイズで、レバーを引くとフタが開く仕組みや内部のスイッチなどデザインを忠実に再現しています。音声ガイダンスも流れることから、体を描いたポスターに電極パッドを配置し、電気ショックや胸骨圧迫（心臓マッサージ）を練習できます。本誌の特集記事でも、AEDの重要性や救命のために行動する大切さを伝えています。



（株）小学館『幼稚園』2024年10月・11月号

■ 所沢市民フェスティバルにAED紹介ブースを出展

2024年10月、日本光電は所沢市民フェスティバルでAED紹介ブースを出展しました。本出展は2回目となり、「AEDの使用率向上」と「日本光電の認知度向上」を目的としています。2024年は、日本におけるAED一般解禁20周年ということもあり、歴代のAEDも展示し、歴史を紹介しました。AED体験は、子どもから大人まで順番待ちの列ができるほどの盛況でした。これらの取り組みを通じて、一人でも多くの方にAEDを身近に感じていただき、使用率向上につながることを期待しています。





所沢市民フェスティバルでの出展の様子